

第19章 福島県海浜青年の家

第1節 概 要

海浜の恵まれた自然環境の中での集団宿泊研修活動をとおり、規律・責任・協同・友愛・奉仕の精神を涵養し、社会の変化に対応できる心身共に健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年4月に開設された県の社会教育施設である。

上記開設の趣旨を踏まえて、今年度は、下記の教育目標を掲げその達成に努めてきた。尚、1月には延利用人数が83万人に達した。

- (1) 思いやりの心に溢れた人間性豊かな青少年の育成。
- (2) 主体的で実践力に富み、明るく個性豊かな青少年の育成。
- (3) 心身を鍛え、自己を高めようとする青少年の育成。
- (4) 郷土の文化や伝統を愛し、生きがいに満ちた地域社会を形成していく青少年の育成。
- (5) 広い視野に立ち、国際理解の精神を身につけた青少年の育成。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	新妻 威男	福島県教育委員会教育長
副理事長	長澤 榮治	福島県総務部長
専務理事	堀内 俊秀	財団法人福島県海浜青年の家所長
理 事	渡邊 専一	福島県教育庁教育次長
理 事	今野 繁	相馬市長
理 事	鈴木 完一	福島県社会教育委員の会議議長
理 事	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
理 事	藤川 光紀	福島県教育庁生涯学習課長
監 事	平口愛一郎	福島県総務部財政課長
監 事	加賀美 孝	福島県教育庁財務課長

(2) 運営委員

氏 名	所 属
◎ 佐藤 栄	相馬市教育委員会教育長
○ 志賀 富男	鹿島町立鹿島町公民館長
大内 忠夫	福島県生活環境部青少年女性課長
榊原 久雄	福島県教育庁生涯学習課主幹
荒 重富茂	福島県立相馬高等学校長
橋本 孝雄	小高町立小高中学校長
太田 豊秋	福島県青少年団体連絡協議会顧問
豊田 耕正	社団法人相馬青年会議所理事
加藤 桂子	利用者代表：主婦
先崎 貞臣	利用者代表：会社員

◎印 委員長 ○印 副委員長

(3) 職員組織

職 員	所 長	次 席 務 課 長 兼 長	指 導 課 長	主 事	指 導 主 事	主 保 健 技 任 師	主 兼 任 運 転 手 務 員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

2 平成6年度重点目標と成果

(1) 研修内容の充実

- ① 青少年団体の利用促進と研修の充実
 - ア 青少年団体の利用を促進し、研修活動をとおりて青少年の「社会参加意識」の高揚を図った。
 - イ 多様な研修のねらいに応じられるよう、新しいプログラムの開発に努め、研修内容の充実を図った。
- ② 学校団体の研修の充実
 - ア 利用団体が自主的・主体的な研修活動が進められるよう、学校との連絡を密にし適切な指導援助に努めた。
 - イ 指導資料を整備し、各団体の効果的な活動を促進しながら、研修のねらいが達成できるように努めた。
- ③ 広報活動の充実と各団体の利用拡大
 - ア 施設紹介のために「所報」を発行し、社会教育関係機関・団体との連携のもとに、利用の啓蒙に努めた。
 - イ 一層の利用促進を図るため、学校・公民館・企業等の訪問を実施した。

(2) 主催事業の効果的な運営

- ① 主催事業の重点的運営
 - ア 集団宿泊指導担当者研修会（5・6・2月に実施）
 - イ 親と子・海浜のつどい（7月に実施）
 - ウ 高校生・海浜のつどい（8月に実施）
 - エ 学校週5日制対応事業（年間7回実施）
- ② 事業内容の工夫・改善と啓蒙
 - ア 前年度実施の反省・評価を踏まえ、内容・方法等の工夫・改善を図った。
 - イ 各学校・各種団体に対し、積極的に啓蒙活動を行った。

(3) 現職教育の計画的な推進

- ① 所内研修の充実
 - ア 実施踏査・実技研修を計画的に行い、指導に精通するように努めた。
 - イ 各種研究協議会・研修会等に参加し、指導力と資質の向上に努めた。
 - ウ O A機器の活用に精進し、事務の能率化を図った。
- ② 施設機能充実等の研究
 - ア 他社会教育施設等を視察し、本施設機能の充実に生かした。
 - イ 施設の特徴を生かした研修内容の工夫や資料の作成に努めた。